

『足利市学校教育環境審議会・議事録のポイントと分析』

年 期 日	回	参加者数 委員 事務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴	
R3 2021	1	4/13 14:00 ～ 15:30	12/13 10	<p>○会議の公開 ○審議会の目的 ○目指すべき子ども像・求められる学校像の実現に向けて</p> <p>○足利市の状況 ○教職員の適正な配置</p>	<p>○事務局より説明 ○事務局より説明 ○事務局より説明 「自ら学び心豊かにたくましく生きる足利っ子」 •目標に向かい、主体的に学ぶ子 •多様な価値を認め、共に生きる子 •困難を乗り越えられる子 •地域社会の一員であることを自覚する子 「自分のよさや持ち味を、存分に発揮できる学校」 •教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる学校 •児童生徒の姿をしっかりと把握し、認め励ます教育を展開する学校 •義務教育9年間を見通し、地域に開かれた中学校区教育 を展開する学校 中学校区内の小中学校が、それぞれの特色を生かしながら、義務教育9年間を見通し、小中の教師が相互に理解を深めながら、系統性、連続性のある教育内容・指導方法を工夫する教育（縦のつながり）。学校と家庭・地域とが育てたい子ども像を共有し、一体となって児童生徒たちを育む教育（横のつながり）。</p> <p>事務局：この学区では特にここに力を入れたい、という設定をしてもらいたい。 委員：保護者としては学校の特色を選んでその地域に住んでいるわけではない。保護者は選択できない。 事務局：子どもがその特色と合わないようであれば、すぐに学校に連絡して欲しい。 会長：保護者の皆様からの意見が学校に届く体制は整備できている。 ○事務局の説明←「数字で示した」とことで、少子化の現実を示したと考えられる。 ○事務局の説明←細かく色々なデータを示したようだ。 会長：構造的で難しい。年齢構成など、足利市だけでなく、どこも似ている。 委員：課題がたくさんあり何を聞いたら良いか分からぬ。具体的方策があるなら示して欲しい</p>	公 2	
	2	6/3 14:00 16:00	12 10	○教員の適正配置	<p>●観点1『教員の資質の向上』 会長：「資質の向上を図る」は絶対に入れなければならない。 委員：本市は若手教員が多い。研修はあるが、一番は「現場で鍛えられ、現場で育つ」だ。一番大事なのは、先生が余裕を持って職務に専念できる環境だ。 委員：一つ目は、「子ども一人一人の特性をしっかりと把握する」。二つ目は、「教育技術、指導技術」。校内研修で先生同士で伝えてきた。 会長：(学校が) 小規模だと (教員が) 学び合うというのは難しい。「適正な配置」が必要だ。</p>	公 1	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非 傍 聴
			委員			
R3				○施設・設備の整備（説明）	<p>●観点2『きめ細やかな指導を可能とする補助教員の配置』</p> <p>委員：補助が必要な子の情報を市と保育園・幼稚園が連携し、<u>その子が進む学校に必要な補助員の配置を実施すれば切れ目のない支援ができる。</u></p> <p>委員：配慮や対応を必要とする児童は増えている。家庭との連携・専門委員との連携（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー）も必要。外国人、国際化の要素も。ICT教育指導も研修だけではなく、補助員が支援していく方が、働き方改革にもつながる。</p> <p>委員：もっと地域の人が学校教育に関わる機会が広がったら良い。そのシステムが欲しい。</p> <p>委員：予算の問題があるかもしれないが、<u>人数を限定せず、対応できる環境を作る。</u></p> <p>委員：ICT支援員については、本当に必要だ。</p> <p>会長：ICT関係はスピードが速い。先生が授業のかたわら学ぶのは難しい。</p> <p>●観点3『小学校における教科担任制』</p> <p>委員：高学年だけではなく、中・低学年でも入れて欲しい。メリットは、①各学年での各教科の統一された教育が可能である。②多くの先生とふれあうことができる。先生の心の切り替えにもなる。</p> <p>委員：中・低学年の保護者としては、一人の先生に連続して見て欲しい。</p> <p>委員：小学校の発達段階を考えると、親も含めて子どもを理解した上で接するための学級担任制の良さがある。また、<u>教科担任制は人数が必要で、小規模校では導入が難しい。</u></p> <p>委員：令和4年から、高学年については英語、算数、理科等で教科担任制が望ましいとなった。しかし、最低でも1学年3学級ないと制度にならない。学校規模が必要だ。</p> <p>副会長：高学年を教科担任制とするのに賛成。低学年は、色々な先生が来たら落ちつかない。<u>中学校は、教員の配当に余裕があるが、小学校はギリギリで、国や県の支援がないと難しい。</u></p> <p>会長：小規模の小学校では、教科担任制は難しい。</p> <p>●観点4『中学校における免許外指導の解消に向けた環境整備』</p> <p>会長：「一緒に学ぶ」という先生の姿勢によっては子どもにもメリットはあるが、なるべく解消するのが望ましい。</p> <p>委員：一番は、文科省が教員の配置基準を変えてくれることだ。</p> <p>委員：現状では、ある程度の学校規模を確保しないと解決しない。</p> <p>会長：「学校規模」がキーワードだ。小中両方の免許を持つ者を採用するのも重要。</p> <p>○事務局より説明。「その他」として、「<u>小中連携教育」「小中一貫教育」「義務教育学校</u>」等の制度の報告あり。</p>	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R3	3	7/16 10:00 ～ 11:40	10	12	○那須塩原市教育委員会・塩原小中学校の Web 講話 (1) 那須塩原市小中学校適正配置基本計画と経過 (2) 塩原小学校の事例紹介 (3) 質疑応答 ○意見交換	(1) 那須塩原市教育総務課による説明 (2) 塩原小中学校による 委員：小中一貫校についての研修だった。 会長：なぜ那須塩原市の塩原地区か、という情報が欲しい。 委員：小中の教員免許を持つ先生が 11 人いた。学級数が少ない（1・2 年 5・6 年が複式学級）ので可能と思う。 委員：少子化の時代に「ピンチをいかにメリットに変える」というモデルだ。 「小中一貫」を肯定的に捉えている。（広いスペースで自由、地域学習もやる） 会長：モデルになっている。 委員：「教科横断的」な教科の枠を超えた教育課程編成が大切になる。 委員：お兄さんお姉さんとの学び合いで、低学年は成長し、中学生は思いやる心が育まれると感じた。しかし、足利市に当てはめると大変な困難がある。 委員：小中一貫で心配なことは、学校に行けなくなると 9 年間行けなくなる可能性があることだ。6 年から中一への階段（軽い挫折感）を超える経験が亡くなる。地域学習はとても大切だ。 会長：小中一貫で、適応の困難な子ども、転校なども難しくなる。 委員：足利市でも全校生徒が 56・60 人という学校がある。毛野小・毛野中は隣接していて、中学生の地域ボランティアクラブ員制度があり、活躍している。 委員：校庭が一緒だと、非常につながりもできやすいと思う。	非 0
4	10/11 14:00 ～ 16:00	12	11	○施設・設備の整備（協議）	●観点 1 『教育の ICT 化』 副会長：「GIGA スクール構想」について教えて欲しい。 事務局：子どもたちに一人一台のタブレット端末を配付、オンラインにつながる無線 LAN 環境を整え、一人一人に個別最適化された学び、たのクラスや他の学校の子どもたちとのつながりによって協働的な学びがいつでも、どこでもできる学校。 委員：子どもたちは使いこなせるようになっている。個別的な学びを考える上で、ICT 化は積極的に取り入れなければならない。ICT を活用して、いかに協働的な学びを取り入れていくかが大きなポイントである。 委員：GIGA スクール構想がコロナ禍で前倒しになった。日本は遅れているが、ピンチをチャンスに変えて進めていけば教育効果は上がる。	公 1	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非 傍聴
			委員			
R3	5	12/6	10	○中学校区教育の推進(説明) ○小中学校訪問の報告 ○中学校区教育の推進(協議)	<p>●観点2『ユニバーサルデザイン』 委員：障害を持つ子どもの親から相談（地域の学校か特別支援学校かの）を受けた。 ※エレベーター、スロープ、トイレ等の問題、心の問題や知的障害、情緒障害などの子どもたちの居場所も意図的に設計する必要との意見が出る。</p> <p>副会長：毛野小学校のエレベーターの経験を述べるが、予算上の困難を指摘する。</p> <p>●観点3『安全・安心な学校』 委員：エアコン（特別教室は完全ではない）、トイレの洋式化（5.2%程）を進めて欲しい。 委員：学校は教育施設以外の役割として、地域の避難所でもある。防災マップ上、水没地域の学校が避難所となっている。電源施設や校庭の整備も大切になる。</p> <p>●観点4『学校図書館の環境整備』 委員：小学校の図書ボランティアの存在。図書アドバイザーの存在。 会長：①子どもたちが本を好きになる環境整備。②地域の人材との連携。③ICT機器との両立。</p> <p>●観点5『学校施設の老朽化』 委員：「維持管理」ではなく、「新校舎」にしたらどうか。子どもの減少も踏まえ、市内の東西南北と中央に拠点校を定め、最低限、そこを整備していく。</p> <p>会長：計画的に改修・改善を進める。財源の限度がある。集中か広く浅くか。</p> <p>●観点6『施設の複合化』 会長：学校の用途、ニーズ、放課後児童クラブの現状などの意見を求める。 ※何の意見も出されなかった。</p> <p>委員：「複合化」については、「目的」や「費用対効果」を考えるべきである。 事務局より説明。</p>	0
					<p>○山前小、名草小、第一中、協和中の訪問 ※校長の明確なビジョンがある。タブレット活用の授業。 きめ細かく接することで優しく子どもらしさが培われる。一方で、競争に打ち勝つたくましさなどの不足を感じる。</p> <p>●観点1『義務教育9年間の連続性の確保』 ①9年間を通して各学校の特色を生かしながら系統性・連続性のある教育内容・指導法を工夫することで連続性が確保される。 ②授業に焦点を当てて小中連携を推進する中で、小中間の良さと難しさを共有していく。 ③各種の分析を通して課題を適切に把握し、9年間の学びを良くしていく。課題には、足利市独自の特設教科も考えられる。?</p>	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R3				○学校の適正規模・適正配置	<p>●観点2『地域との連携・協働』</p> <p>①学校・家庭・地域では、具体的には自治会長や民生委員や学校評議員など、各立場で、育てたい子ども像を共有していくために協働作業が必要。地域に開かれた学校から、地域とともにある学校へ。</p> <p>②連携協力していく新しい体制・仕組みを作っていくことが求められる。</p> <p>事務局より説明。非公開。</p>	非	
R4	6	1/12	9	13	<p>○学校の適正規模・適正配置(協議)</p> <p>●観点1『学び合う集団と人間関係づくり』</p> <p>①学年1クラスの学校で9年間上がると人間関係が固定化され序列化される。</p> <p>②複数クラスあった方が望ましい。(国の示す適正規模は一定の目安になる)</p> <p>③社会性や規範意識を身に着ける学び合う集団作りに努めていく時、良いものになるためには一定規模の学校が必要。</p> <p>④国や県の施策に整合し伴走する努力が必要。</p> <p>●観点2『部活動』</p> <p>①部活動が活発に一定程度以上に展開するためには学校規模は直結する。</p> <p>②方向性は方法と目的を明確にすること。</p> <p>現状を維持するために外部指導者的人材養成と確保維持、また、地域スポーツクラブ移行など地域の実情に合わせた在り方を求める。</p> <p>●観点3「子どもの数の推移」</p> <p>※20年後も学び合う集団作りには、学校の一定規模の確保が必要であり、学校規模を維持することを前提に考えていく方向性を大事にして欲しい。</p> <p>※学校規模・適正規模と適正配置という言い方が入った方が良いのか。</p> <p>●観点4「通学路の安全安心」</p> <p>①子どもたちに必要な正しい知識を身につけるよう指導していく。</p> <p>②大人として通学路の様々な安全対策を施す努力。</p> <p>③各種情報を関係機関と連携して学校・家庭・地域が共有する。</p> <p>観点5「通学距離・時間・方法」</p> <p>※国の標準的考え方→小学校は概ね4キロ以内、中学校は概ね6キロ以内 通学時間は概ね1時間以内</p> <p>※各地域の実情に応じて、それぞれの学年にあった児童生徒への配慮を考える。</p> <p>※また、バス利用も含め統廃合の中できちんと対応していく必要がある。</p> <p>●観点6「小規模特認校」</p> <p>①小規模特認校の良さが概ね達成できているとの回答がある。</p> <p>②この方向を継続していくことも考えられるが、再確認と再検討する必要がある。</p>	非	0

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4				○これまでの審議内容の振り返り・意見交換	<p>事務局：栃木県の2022年度教職員配置基準案を説明</p> <p>※教職員の適正配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の質の向上（児童一人一人への適切な支援や指導の改善） 教職員の互いの学びあいには一定程度の学校規模の確保が必要（小学校に教科担任制導入、小中学校の円滑な接続や連携） （中学校の免許外教科指導の解消と教科外教科担任への支援） <p>○施設設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備と教職員への指導力向上支援体制 ICT活用による働き方改革の推進 老朽化対策や地域コミュニティの拠点を踏まえた計画的・効率的な整備の推進 学校図書館の環境整備 施設の複合化 <p>○適正規模・適正配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的学びで社会性と規範意識を身に着けていく 教職員のバランスの取れた配置 持続可能な部活動運営と望ましいスポーツ・文化活動の実現 <p>○中学校区教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒数の推移を視点とした教育環境 将来あるべき学校像を見据えた学校規模の確保 分散進学の解消 	非		
R4	7	2/21	11	12	○諮問事項1のまとめ	(1) 教職員の適正配置 <ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質の向上 豊かな人間性と確かな専門性 学校と地域をつなぐ人材や仕組み作り 特別な支援が必要な児童生徒への切れ目のない支援 小中学校の教科担任制の確保維持 (2) 施設設備 <ul style="list-style-type: none"> 教育のICT化、学校図書館の環境整備 多様な学びを支える教育環境の基軸 地域コミュニティの拠点形成 コスト削減（ユニバーサル、バリアフリーの推進） 複合化への柔軟な対応（地域コミュニティの強化、地域人材の活用） (3) 学校の適正規模・適正配置 <ul style="list-style-type: none"> 集団生活や地域との多様なかかわり 地域人材の確保を含む地域の協力 	非	0

年	回	期日	参加者数		議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴	
			委員	事務					
R4					<ul style="list-style-type: none"> ・学区内の通学路の交通状況を踏まえた望ましい通学条件の確保 <p>(4) 中学校区教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育9年間を通した教育課程の編成 ・小中学校相互の教育課程の理解 ・系統性・連続性のある教育課程や指導方法の具体的な設定と実践 ・学校間の連携や協力体制 ・少人数で児童生徒同士の人間関係が固定化し、多様な考えに触れる機会が少なくなならないような協働的な学習の推進 <p>(5) 全体を通しての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小規模校」と「小規模化」の意味の違い ※現在の「小規模校」は特色ある、目指すべき子ども像や学校像を実現している学校を考えると、小規模化が進んでも大丈夫、となる。「小規模化」という言葉の範囲が曖昧で、使うには検討の余地がある。 				
R4	8	5/18	11 13人中 5人が変更となる	11	<ul style="list-style-type: none"> ○足利市立小中学校の学校教育環境の充実に関する諮問事項1のまとめ ○今年度の審議会の進め方 ○諮問事項2の審議事項 ○佐野市あそ野学園視察について 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校規模」では、一定規模、一定程度、確保、保持、と不揃いであった。 ○「充実」と「実現」では、実現しての充実か、充実して実現なのか、曖昧だった。 ○委員の任期は令和6年末。(部活動など)問題がどんどん広がっていくのでスピード感を持って対応する。 <ul style="list-style-type: none"> ①学校再編に向けた基本理念 ②学校教育制度の在り方 ③望ましい学校規模 ④望ましい学校配置 ⑤新しい学校配置案 ⑥学校再編における留意点 ○令和4年7月7日に実施予定 	非 公 1		
	9	7/7 13:30 ～ 16:00	13	12	○佐野市あそ野学園義務教育学校視察	<ul style="list-style-type: none"> ○2班に分かれ、新築・改修された校舎や授業の様子、小学校児童の下校の様子(スクールバス対応) ○研究討議 <ul style="list-style-type: none"> ①質疑応答:「義務教育学校の評価」「PTA活動」「スクールバス」について補足説明 ②意見交換:各委員から「前期課程(小学校)高学年における教科担任制の効果」「一つの小学校から複数の中学校への分散進学」「再編対象小学校間の交流活動、小学校と中学校の交流活動」「あそ野学園義務教育学校の前期課程から後期課程進学時における他の中学校の選択」等 		公 0	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4	10	8/25	11	15	○視察結果報告	<p>○副会長から「意見交換ではなく、私の総括報告の形で共通理解を図りたい」の発言 委員からのご意見として：「9年間を見通した学校運営の良いモデル」「学校再編について、保護者や地域の方々の間で共通理解を図る努力が、早い段階から見られた」など。課題としては、「9年間同じ環境で生活する良さ、環境を変えたい児童生徒、私立中学校への進学への対応」や「通学区域の広さ」「スクールバスの運用」が感じられたようだ。</p> <p>※人見会長からは、「統合に向けた進め方として、決して学校主導や地域主導で進めたのではなく、みんなで子どもたちの将来のために、平等・対等に話し合って考えてきた」という意見が出ている。</p> <p>※私の方からは、「あそ野学園が円滑に運営されている背景に、学校新設までの経過を特に大切にしたことがある。」「関係する小学校同士、小中学校間、子ども同士の交流、教職員の交流があり、保護者や地域の方々への情報提供など、共通理解を図るために、丁寧に時間をかけてきたからであると述べたい。</p> <p>○事務局：「小中一貫教育制度の考え方」について説明 委員：事務局として、いつ頃を目安に答えを出すのか。 事務局：令和5年度中にまとめ、地元に説明しながら、令和6年度には行政の計画素案をまとめたい。 委員：小中一貫教育についてモデル校区を設定し、小中連携の枠の中で9年間を見通した教育課程まで踏み込んで編成するという理解で良いか。 事務局：「小中一貫校」の明確な定義がないことが分かっている。モデル的に実施し、検証を行い、優位性を確認しながら学校再編に小中一貫教育を取り入れたら良いと考える。 委員：各中学校区での小中学校のグループ化の中で、義務教育学校にするのか、小中一貫校にするとかのイメージがあるのか。 事務局：これから審議会の中で議論していくこと。 委員：保護者よりの意見ではあるが、子どもたちは、9年間一緒にでも大丈夫という思いはあるが、足利市として小中一貫教育を推進していくのなら、中学校区ごとではなく、足利市全体で学びを一律にして欲しい。高校受験や大学受験もあるので、平等な教育を受けさせていただきたい。</p> <p>○事務局：「学校再編に向けた基本理念」について説明 委員：市民アンケートを行うとのことだが、地域の意見は留意事項になるのか、重きを置くのか。 事務局：学校再編アンケートの趣旨を説明する。①小学5年生・中学2年生の保護者に約1000名、未就学児の保護者無作為抽出で1000名、地域の市民無作為抽出で1000名で実施。「意見をお聞きする」という趣旨で扱いは審議。</p>	公 0

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4	11	10/24 10:00 ～ 11:40	12	15	<p>○報告 (1) 再編に関する市民アンケート調査結果(報告)</p> <p>(2) 児童生徒数と学級数の推計</p> <p>○議事 (1) 望ましい学校規模 (1校の学級数)</p>	<p>委員：学校を拠り所という言い過ぎだが、コミュニティの場としてはすごく大切にしている。あそ野学園でも新しくそれぞれの地域でやってきたことを集約していくのが大変であったと伺っている。だからこそ、学校再編の検討には、地域の方々の意見はすごく大事になると思う。</p> <p>委員：(事務局案に意見があるというわけではないが) 災害時の避難所をどうしていくかも、全市的に考える必要がある。今、小中学校のほとんどが地域の避難所になっている。再編されて3～4キロなどとなった場合に、高齢者は徒歩では無理なので車に乗り合わせということになる。こういう問題も一緒に考えなくてはいけないのではないか。</p> <p>委員：各小中学校に「地域連携教員」がいるが、その先生方は何かリードをてくれるのか。むしろ、地域コミュニティの核に入ってくれると良いのだが。</p> <p>事務局：学校では、地域連携教員を校務分掌に位置づけている。地域の方へいろいろとお願いするため、コーディネイトするための教員である。さらに、地域には地域コーディネーターを置くことになっている。この二つが上手く機能している地域もある(例えば、図書ボランティアなど)。</p>		非 0
						<p>○事務局より説明</p> <p>委員：回収率49.6%は、予想よりも高かったのか。</p> <p>事務局：保護者の回答は、もう少し高いかと思った(特に中学校 49.1%)。未就学児の保護者42.8%、市民36.2%というのは比較的高いと思う。</p> <p>委員：デジタル化により集計しやすくなった。</p> <p>委員：小5の保護者なので、回答させていただいた。紙ベースで提出した。回収率が想像より低いと感じた。「学校再編」に関しては、賛成意見が半数以上だが、「分からぬ」との回答が多かった。一般市民や保護者としては、いきなり学校規模に対してのアンケートというのは難しかったと思う。知識や興味関心がないと今回のアンケートは難しかったと思う。市民への説明がもう少し分かりやすかつたら、答えやすかつたと思う。</p> <p>事務局：事務局としても同感であり、「分からぬ」と回答した方へも、理解していただくように、丁寧な説明を心がけたい。</p> <p>○事務局より説明 (非公開)</p> <p>○事務局：・・・ 小学校は12～18学級、中学校は9～18学級・・・ (2～3クラス) × 6 (3～6クラス) × 3</p>		

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4	11			<p>(2) 望ましい学級規模 (1学級の生徒数)</p>	<p>委員：数字的に示していただいているが、保護者としてはきめ細やかな指導をしていただければ満足だと思う。学級数が大きくて小さくても、1クラスが少人数でも、先生の質を向上するなりして、一人一人見ていただければ保護者としては満足だと思う。ただ、こちらの会議ではそういうことではないので、学級数がいくつ必要などと考えなくてはいけないと思う。</p> <p>会長：小さい規模の方がきめ細かく（指導）でき、一方で、小さすぎると教育効果が得られにくく、両立しないところがある。</p> <p>事務局：（アンケートに）「一人の児童生徒が複数の学校再編を経験しないようにする」という回答が非常に多い。</p> <p>委員：事務局案に基本的に賛成したい。（人間関係を築ける、国の基準にも準じる）</p> <p>会長：事務局案に沿って進めていく。</p> <p>○事務局より説明</p> <p>委員：複式学級の早期解消を強く思う。大月小に通っていて6年で8人。修学旅行では、名草小と一緒に行く。名草は6人の合わせて14人で行った。北中進学に向けて交流てきて良かったが、「宿泊学習（1泊）」や「海浜自然の家（2泊）」を他校は段階を経て4年、5年で行くが、名草・大月は4・5年で一緒に行った。段階を経て欲しい。</p> <p>会長：「国の基準」では1学級40人だが（古い！）、栃木県教育委員会としては35人としている（上限）。下限は18人、2倍で36人となり、ちょうど2クラスになる。</p> <p>委員：私は逆の意見で、35人学級が多いという感想である。先生が全員を見られるわけではないので、少人数の方が良いと思った。自分自身も分校で育って、3学年しかいに小学校生活を送ったが、楽しかった思い出がたくさんある。運動会は本校に合流してやった。楽しかった。しかし、他の委員の意見を聞くと、人数が多い方が良いと思うこともあり、答えが出ないまま回答してしまった。</p> <p>会長：協働的な学習（3～4人で話し合って全体と比べながら考えを練る）をするには一定の人数が必要。2班より4班の方が教育効果が上がる。</p> <p>委員：複式学級の場合は、学習面でも一緒にできない苦労があるし、行事でも少人数では経費がかかるとかあって、早期に解消したいところだ。</p> <p>学校は学習だけではなく、社会性を養う場でもある。学校行事、特別活動、学級での子ども同士の関わりなどで養われる。現実的には30人を超えると多いと感じているが、事務局案に基本的には賛成したい。</p> <p>会長：これまで事務局案に大きく修正を迫る意見は出ていない。事務局案を今後の骨子として考えたい。（委員：異議無なし）</p>	非	0
----	----	--	--	-----------------------------------	---	---	---

年	回	期日	参加者数		議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴	
			委員	事務					
R4	11				(3) 学校規模・学級規模を視点とした「小規模特認校」の考え方	<p>○事務局より説明</p> <p>会長：今日は、「教育効果」というキーワードが繰り返し出しているが、ご意見を。</p> <p>事務局：小規模特認校については、様々な生徒の1つの選択肢になってきた。今後、学校再編の中で、<u>指定校変更の条件を柔軟に運用すること</u>や、(学校家庭教育相談室の強化など) <u>新たな制度設計</u>で一人一人の子どもに対応できるように考えている。</p> <p>会長：小規模特認校は今後見直していくことが提案されている。続けるのは難しいというニュアンス。学校規模の基準と小規模特認校は両立しにくい。卒業した子どもや保護者の方から「通わせて良かった」というたくさんの感想が出ている。そこは大きく評価したい。ただ、学校再編の中では難しいと思う。</p> <p>委員：取り組んだ12年間、一定の成果を上げた。その経験、知見を学校再編の中で生かして欲しい。基本的に事務局の考えに賛成である。</p> <p>委員：1中を視察した時に、校長から73%が地域外から来ており、地域コミュニティが希薄化し、分断されている。(住んでもいないのに旗持ちをやるのかなど)</p> <p>会長：小規模特認校制度を見直すことを骨子にして、例えば「不意登校やいじめの問題」を「教育上課題を抱える生徒」と書くことなども含めて、全くなくなってしまうというニュアンスをあまり出さないように、最終的には見直しの方向につながるように表現を考えていきたい。</p> <p>委員：異議なし</p>		非	
R4	12	12/5 10:00 ～ 11:40	12	16	<p>○報告</p> <p>(1) 学校再編に関する市民アンケート調査結果</p> <p>○議事</p> <p>(1) 望ましい通学距離、通学時間、通学手段の考え方</p>	<p>○事務局より説明</p> <p>会長：「分からない」が全体で2割、10代だと5割を超える。私たちへの「もっと積極的に様々な情報を出して欲しい」というメッセージなのかと思う。</p> <p>副会長：会長のお話のように、「学校再編に反対する」とか「分からない」といった回答があるので、慎重に議論して進めていく必要を感じた。</p> <p>○事務局より説明</p> <p>委員：「地域の実情」とはどういうことを指すか。</p> <p>事務局：地区ごとの地形なり環境の違いがあるということ。(例：田んぼが多い、山間部で坂が続いている等)</p> <p>委員：過去の学校再編後、子どもたちの通学区域や交通手段や通学距離が変わることでの自覚症状等の調査や聞かれた声というものがあれば教えて欲しい。</p> <p>事務局：再編後の後追い調査はやっていない。把握できていない。</p> <p>委員：現在の自転車通学やスクールバスに、一定の基準があるのか。</p>	非	0	

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4				<p>事務局：「中学校では、3.3キロを超えたら自転車通学、6キロを超えたらスクールバス等の導入」を一定の基準として示した。</p> <p>委員：現在スクールバスを利用している中学校は2校で、17人が利用しているが、下校時に何便を出しているのか。</p> <p>事務局：学年ごとに下校時間が異なるので、複数回運行している。</p> <p>委員：市民アンケートでも、通学時間、通学距離、通学方法と安全確保について、多くの人が心配し、対応を望んでいた。現在対応しているということで安心した。（？）</p> <p>会長：あそ野学園でも朝は小中学生が一緒に乗る。帰りは複数便となっていた。 現状本市でもそうなっている。継承してもらいたい。</p> <p>委員：アンケートの中で「どちらかと言えば再編はしたくない」という方達が、その理由として「通学時間・通学方法の変化」と答えている。さらに自由記述には、「子どもたちが自分の地域から他の地域に通っていくと、時間が延びて心配。仕事があるので対応が大変になる」などとある。自治会の立場からも言えるが、地域のコミュニティとしての役割を持っている学校を、本當なら残してほしいという意識が強いのではないかと感じた。したがって、通学の「時間・距離・手段」や「通学区」を提示する際には、地域の感情を十分に考慮して説明する必要がある。</p> <p>委員：文科省では、4キロを超えると小学生・中学生にストレスや自覚症状が出ること。PTAの立場では、小学校が大規模でも小規模でも、それぞれの良さがあり、課題がある。これまで学校再編をして環境が変わったこともあるのだから、ぜひ、今度の再編に向けてはそこを検証して、家庭の協力、学校の努力などを積み上げてから実施してほしい。 ※調査などをして</p> <p>事務局：過去の学校再編はどうだったのか、という意見がアンケートにあった。 今後、様々な意見を伺い、考えていく。</p> <p>会長：通学時間は、通学手段を問わず40分以内。距離は歩く、自転車のスピードを勘案して算出される（2.8キロ、3.3キロ）。</p> <p>事務局案に大きな反対、修正を求める意見はないと考える。</p> <p>○事務局より説明</p> <p>会長：「現在の通学区域を基本として、統合した通学区域を考えていく」と提案されている。</p> <p>委員：強く賛成。小中連携教育を発展させて、通学区域の設定により「分散進学」を解消する。通学区域と地域は不可分であると考える。</p> <p>委員：基本事務局案に賛成。現在、自治会をベースにした地域コミュニティは希薄化している。前回の中央地区の再編でも自治会単位はそのまま残っている。</p>				非

年	回	期日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍聴
			委員				

R4					<p>基本的にには、自治会の再編も頭に置いておく必要があるのでは。</p> <p>委員：地域のコミュニティ（自治会）の衰退（希薄化）は現実である。そこで、むしろ自治会の再編もにらんで進めていく方法もあるのではないか。この件については、(当然) 地区の話し合いが起こてくるだろう。学校再編に大きく関わる根本的問題になるかもしれない。</p> <p>会長：自治会（コミュニティ）を再編してくれとはここでは書けない。</p> <p>委員：学校の印象としては、本当に地域に根ざしていると思うので、通学区域を設定する際に、自治会を単位としていくのは非常にありがたい。</p> <p>副会長：学校によっては、境界線にあったり、「何でこの子がこの学校?」「なんでこの地区が?」というのが何ヵ所かある。配慮が必要と思う。</p> <p>事務局：境界線については、各町内で自治会長の承認を得る中で分かれて進学することを認めている。学校教育課で相談にのっている。</p> <p>会長：「望ましい通学区域について、現在の通学区域を基本単位として、統合の必要があれば統合した通学区域を設定していく」ということに大きな反対や修正の意見もないでの、結論としたい。</p>		
R5	13	2/6 14:00 ～ 15:40	10	18	<p>○意見交換</p> <p>(1) これまで検討してきた 望ましい学校教育環境 の考え方</p> <p>○事務局の説明</p> <p>会長：アンダーラインは、事務局が「分かりやすい表現」に置き換えている。出している意見を追加したのではなく、整理したということだ。</p> <p>委員：「小規模特認校の考え方」で「新たな制度設計等により」とあるが、会議では出ていない。例えばこんなことを検討する制度設計などと具体例を入れた方が良い。</p> <p>事務局：「新たな制度設計」については、具体的な議論はなかった。今後の答申策定において、学校教育課、会長、副会長と協議して何らかの案を出したい。</p> <p>会長：あまり具体的に思い浮かばないのなら無理して答申に書かない方が良いだろう。</p> <p>委員：大規模校では、個々の把握がしにくくなる。個々の活躍の場が少なくなる。施設利用の制限がある。「教育効果」と言う語句が何度か出てくるが、保護者にはわかりにくい。どの辺が教育効果なのか、どの辺をデメリットとしているのかを分かりやすく。</p> <p>「学校選択制の導入」では、選択することで通学距離が長くなる場合、小学生ならバスが出るのか、一人でも出すのか。</p> <p>事務局：会議では様々な選択制の形を説明した。隣接の地域で行ける、特色がある特認校があれば行ける、エリア内で近い人だけが行けるなど。具体的な議論</p>	非 0	

年 度	回 期 日	参加者数 委 員 事 務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴

R5			(2) エリア分けについて	<p>はこれからだ。</p> <p>会長：「教育効果」としては、少人数、単学級の小さい学校で、意見を出す人が固定化されることが解消される。免許を持っていない先生が授業することなく、専門教科を担当するなど。</p> <p>○事務局の説明</p> <p>会長：シュミレーションを準備いただいたが、「エリア分け」は審議会で決めることではなく、市の行政計画の中で作っていく。答申を一度公表してしまうと、現実問題、学校再編が立ちいかなくなると良くない。従って、ここでは、どれが良いとかではなく、「こういう点が考えられる」という意見を求める。</p> <p>委員：どの（9、7、5エリア）シュミレーションでも毛野地区と富田地区が重なる。両地区をつなぐのは県道67号だけで、交通の危険性や坂を越えるなどの現状がある。毛野南小地区には三中が近い子もいる。</p> <p>会長：通学区の端の方住んでいると遠くなるのは、本当に悩ましい。</p> <p>委員：（このエリア分けは）衝撃的な数字だ。複式学級や分散進学は、11エリアから9エリアになれば解消される。令和4年や令和5年度の学級規模数と10年後の学級規模数が違いすぎて、一人の子どもが2回の再編を経験しないということが重視されたが、起きてしまうかが心配だ。</p> <p>事務局：一人の子どもが2回、つまり小学校で6年以内にない方が良いという認識でいる。</p> <p>委員：エリア分けは、先を見ながらやっていかなければならない。結果として5エリアに分けるのが無難とは言えるが、子どもや保護者の気にする「通学方法」がネックとなる。従って、7エリアが良いのではと思う。</p> <p>会長：一遍に（再編を）やってしまうのが良いのか悩ましい。</p> <p>委員：見れば見るほど、私が生きている内のことか、政府の異次元の少子化対策に頼るしかないなど、悲観的になる。</p> <p>委員：あまりにエリアが広いと、学校と連携して子どもを育てるのが難しくなる。</p> <p>会長：その通り、悩ましい。</p> <p>委員：非常に衝撃的な数字。5エリア方式を探らないと審議会で検討してきたこと（学びの場の確保、切磋琢磨の場、学級編成上の問題、専門教師の配当、学校設備など）が生かされない。5エリアには保護者等は対応できない。まず9エリア、7エリアにして、順次移行して最終5エリアの言い方しかできない。もう一つは、逆に小規模校を中心に教育再編するという方法も考えている。</p> <p>会長：昨年からその方向ではない議事できているので難しい。</p> <p>事務局：旧市内が7エリアになり、1中、2中、3中が一つの学校になると分散進学も学級数の基準もクリアする。7エリアに一つずつの中学校ということか。</p>	?	非

年 度	回 日	期 日	参加者数		議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴
			委 員	事 務				

R5	14	5/24 9:57 ～ 11:50	12 オンライン参 加ファ インコ ラボレ ート (株)	15	○報告 (1) 令和5年度の審議会の進め方 (2) これまでの審議会のまとめ ○意見交換 (1) エリア分け ○議題 (1) 答申の構成について (2) 第2章諮問事項1について	事務局：7エリアで7つの中学校にすれば、こうなるというたたき台として示している。小学校の方は全く触れていないのでこれから意見を聞き考える。 あくまでシミュレーションである。短期的に見てあまり先を考えると、(人数の)データなどの信憑性は曖昧になると思う。 副会長：私も衝撃を受けた。市民にはもっと衝撃的だろう。 委員：小中一貫教育の推進はあるが、今の中学校区では分散進学もありやりづらい。「モデル校区を設定し研究する」とは、9, 7, 5に分けたモデル校として設定するのか。 事務局：現在のモデル校は、中学校区ごとの小・中学校を基本として考えている。		
						○事務局から説明 ○事務局から説明 会長：一人の子が9年間小中学校に通う中で、エリアの変更が2回あると転校等で負担になるので避けた方が良いというのは大事な視点。 委員：合併となるので、通学時間が気になる。保護者としては、子どもの安全性を考えて欲しい。 副会長：エリアについては、ここで決定することはできない。が、「9が7になる」「5になる」などのプランを示す必要はある。 委員：段階的に考えていくしかないと思う。第1期、第2期などと。理由として、地域住民に理解・浸透させるには時間が必要。学級規模を決める際、1学級35人は希望的観測で、将来、少子化が進み、国基準が変わるものかもしれない。	非 0	

年度	回 期 日	参加者数 委員 事務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴
					委員	事務

R5				<p>会長：貴重なご意見です。</p> <p>副会長：教科担任制について、「モデル校を指定し、研究を進める」とある。状況を教えて欲しい。</p> <p>事務局：昨年南小学校をモデル校とした。5、6年生で実施したが、①子どもの感想で「教科に詳しい先生に教えてもらえて、色々（質問を）聞けた」「教え方が分かりやすい」「考えが深められた」「色々な先生とつながりができた。」「中学生は、教科担任制なので良い。」②教師の意見では、「一つの授業を複数回できるので、つまづき予測もできた」「ポイントを落とさず指導できた」「担任間の連携がスムーズに図れた」</p> <p>桜小学校では、小規模の学校で教科担任制をいれたらどうなるか、という研究をしている。4年生以上で行っている。本市としては全小学校で教科担任制の導入を進めている。←4年生以上？</p> <p>現在、本市では、児童生徒相談員 73、すこやか支援員 13、小規模特認校指導員 6、英会話学習指導員 8、ALT（中学）10、（小学）11、配置している。再編においてこの数は減らさないように考えていきたい。</p>		
				○事務局より「2施設・設備」について説明		
				<p>委員：体育館にクーラーがついている学校はあるか。</p> <p>事務局：整備されていない。</p> <p>委員：体育の授業は外も中も暑い。温暖化も進み必要ではないか。</p> <p>事務局：一基あたり1億円という経費がかかるので検討中である。</p> <p>委員：体育館については、防災拠点でもあるので、真剣に考えて欲しい。</p> <p>会長：施設の複合化。大事な視点である。</p> <p>委員：ICT環境について、児童生徒が自律的に活用できるように、情報モラル教育と情報リテラシーの方も強化してもらいたい。</p>		
				○事務局より「3学校の適正規模・適正配置」について説明		
				<p>委員：「小中学校の小規模化や過度な小規模化」という文言があるが、小規模と過度な小規模の違いは何か。</p> <p>事務局：「過度な小規模」は、複式学級を想定している。</p> <p>委員：複式学級が現在あるとすれば、この表現は失礼ではないか。</p> <p>会長：預かる。表現を調整する。</p> <p>委員：「部活動」について、国の指示で、クラブでも部活の大会に出られる。実際問題として、学校の教員以外で部活動を見る人がいないので、エリアが少なくなった場合には（現在もあるが）拠点校を作つて子どもが救われるようにして欲しい。</p> <p>委員：指導の教員にの異動についても、部活動を考慮に入れて欲しい。</p>		

年度	回 日	期 日	参加者数	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴
			委員				

					○事務局：「4中学校区教育」について説明 委員：「地域とともに」とあるが、エリア分けにより地域が広くなり難しいのでは。 事務局：佐野市などの先進的な事例のように、学校が新しくなり、地域が広がるの で「地域を学ぶ科目、学習」を位置づけ、地域の方々に参加していただき、 学びを深めたい。 委員：9年間の系統性、連続性のある教育が肝で、9年間の教育課程の編成と地域 の実態があり、これが効果的に取り組まれて質が高められていくことが答申 の柱になるのではないか。		
R5	15	6/28 10:00 ～ 11:55	11 須藤 教 育長 ファイ ンコラ ボレー ト(株)	16 ○意見交換 (1) エリア分けと児童生徒 の推移 ○議題 (1) 「答申（第2章 諮問 事項1）」について (2) 「答申（第1章 答申 に当たって）」について (3) 「答申（第3章 諮問 事項2）」	○事務局：シユミレーション別のエリア図、シユミレーション別の児童生徒数の推移 図、将来推計比較（独自推計とコンサル推計）の内容を説明 委員：最終的に5エリアになると、望ましい学校規模なる説明であったが、5エリ アでも基準を下回る学校はある。すべてのエリアの改善が必要。また、通学 路が変わる、学校が遠くなるという問題は変わらない。実際に通う子どもたち を無視しているのでは？ 事務局：あくまでシユミレーションです。これから検討する。 委員：詳細な将来推計は足利市で出せる情報を基に「コーホート要因法」で「株式 会社サンコラボレート研究所」に推計をお願いしている。 ○事務局説明後→異議なし ○事務局より説明 委員：学級数の推移で、1学級の人数を何人で計算しているか示していない。 事務局：注釈を入れるなど対応する。 ○事務局が説明→表現の仕方を点検 会長：小規模特認校については、現状上手くいっていると理解できるが、再編との 両立が難しいとの考え方を集約されたので「小規模特認校制度の見直し」と いう方向性となり、将来的には見直していくたいとの考えである。 委員：現状の小規模特認校を求めている方は多い。「全体的に見直し」は問題ないが、 見直しの意味を教えて欲しい。 事務局：第1中、富田中、愛宕台中を選んでいる。小規模特認校制度については、 毎年一定の時期に全校の家庭に通知し、事前に希望者に講習会を開き、学校 見学もしている。現段階では、指定校の変更制度を柔軟に考えることを中心 に、「よさ」も加味して考えたい。	非 公 非	

年 度	回 期 日	参加者数 委 員 事 務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴
R5	16	7/19 10:00 ～ 11:30	10 須藤教 育長フ ァイン コラボ レート (株)	15 ○議題 (1)「答申（第1章答申に 当たって）」 (2)「答申（第3章 諮問事 項2）」 (3)「答申（第3章 諮問事 項2・学校規模や通学 区域等を視点としたエ リアの考え方）」	会長：「5 望ましい通学条件の考え方」についてお気づきの点はあるか。 委員：子どもが通る道の問題点をどこに相談したら良いか。 事務局：毎年通学路点検を PTA にしてもらい要望を出してもらう。「通学路安全推進会議（道路管理者、警察など）」で内容を検討して現地を確認しながら進めている。 会長：「6 望ましい通学区域の考え方」について。 委員：地区の重要性、地区を生かす通学区域を考えていくべきである。 会長：自治地区や地区自治会を分割しない方向性が望ましいとなっている。 会長：「7 学校規模や通学区域を視点としたエリアの考え方」については次の機会に意見をいただく。 会長：「8 小中一貫教育の考え方」について。 審議会としては何々型の小中一貫教育がいいという言い方はしない。	
				○事務局説明の承認 ○事務局説明 委員：（表現の問題だが）「原則として現在の通学区域を基本単位」とした場合、「今 の通学区域」が原則なのか、「自治会や地区自治会を分割しない通学区域」が 原則なのか。子どもたちの実態に配慮していくと現在の通学区域にした方が よいが、分散進学を課題とすると、自治会や地区自治会を分割しないことを 原則にするべきでは。 事務局：次回までに検討する。審議会では、分散進学の解消は目的である。 ○事務局説明 会長：エリアをどうするかは、本当に悩ましい。「総合的に設定していくのが望まし い」という言い方になる。 委員：エリア分けは非常に難しく、西地区と旧市内を含めた中央地区があまりにも 広く、悩ましく見ていた。6 エリアあたりで距離等の問題の解消にないかと 考えていた。 会長：7 と 5 の間で 6 という考えはどうかという意見だった。時間的には難しいが、 事務局で計算していただければ。 委員：望ましい通学時間や通学距離がある中では明らかに難しい。結局、エリアや 数字だけを見るのではなく、交通はどうか、どこの学校を使うのかなど全然	公 公 非	

年度	回 期 日	参加者数 委員 事務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴

R5	16		(4) 「答申（第4章 留意事項）」 その他 (1) 「答申（第3章 諮問事項2・第4章 留意事項）」に関わる意見集約について	<p>想像できない状態である。</p> <p>会長：どこの校舎を中学校とするかは、本審議会外の問題であり、行政が考えてい く計画の問題である。今後市で開催する説明会の折に意見を交わしながら詰 めていくことになる。</p> <p>○事務局の説明</p> <p>委員：「通学路の安全」については、「〇〇や〇〇の対策を考慮し、安全対策を進め る」などと具体性のある表現にして欲しい。</p> <p>会長：次回に向けて考えたい。</p> <p>委員：市民アンケートでも「通学時の安全」についての意見が一番多かった。やは り、手厚く説明が必要だろうと強く思っていたのでぜひ検討して欲しい。</p> <p>委員：学校跡地の活用については、地域の人が必要とするものを考えることが大事 だ。住宅が数十軒建っても、子育てのピークが過ぎればあつという間に高齢 化が進む。繰り返すべきではない。</p> <p>委員：通学路の安全は必ず必要。本審議会では、人的な環境、物的な環境と考え べきことが様々あるが、「教育の質」を一番に考えて欲しい。再編の時期は今 のやり方を大きく変えるチャンスであると思う。「教育の質」を前面に押し出 していけたら良い。</p> <p>○事務局よりの説明だけである。</p>	非 非

年度	回 期 日	参加者数 委員 事務	議事内容	発言のポイント	公 非	傍 聴
					委員	事務

R5	17			<p>とがしっかりと話し合いを進めていくことが肝要とのメッセージだ。</p> <p>副会長：小規模特認校の部分で、文科省の手引きの中にある、「教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる」という表現が引っかかる。それは大いに良いことではないかと思う。カットしたい。</p> <p>委員：足利市教育委員会事務局が出している「学校教育指導計画」に「足利市教育指針」として目の前の一人の子に寄り添うということが強く挙げられている。そのため、足利市としては指導計画の目標と齟齬が生じるので、カットしてよいと思う。</p> <p>委員：文科省の手引きで示されているが、「児童生徒数が少ない学級は教育効果が下がる」などもマイナスに読めてしまい、通わせている保護者には効果が下がる学校にいるように感じ取れた。</p> <p>会長：この文章を削除する方向で考えたい。</p> <p>会長：エリアの考え方について、大きな修正箇所として提案があった。それは、5エリアの場合、7エリアの場合、9エリアの場合と3つに分けてメリット・デメリットが書かれている。シミュレーションした結果の内実を、メリット・デメリットの両面をなるべく書いた方が良いと会長も賛同したからである。</p> <p>副会長：「エリア設定に当たっては、自治会組織の在り方」とあるが、「自治会全体の組織」か「各地区の自治会」か分からぬ。</p> <p>事務局：今後の在り方については、市長部局、市全体で考えていくべきなので、教育委員会としての考え方は基本的にはない？議論の方向性を共有、尊重する。</p> <p>会長：1学級の人数について、将来国が35人を見直して、例えば30人など小さくした場合、このエリアにも間接的に影響がある。</p>		
R5	18	9/27	13 教育長 ファイ ンコラ ボレー ト（株）	17 議題 (1) 「答申（案）」 ※各委員の感想	<p>会長：「答申案」を了承していただけるか。</p> <p>委員：異議なし</p> <p>会長：賛成総意ということで、完成とさせていただく。</p> <p>委員：今後進めるに当たっては、保護者、地域、そして学校の先生方のご意見を伺って、慎重に進めていただければありがたい。</p> <p>委員：データを基に丁寧に説明していただければと思う。</p> <p>委員：はじめ小規模校の名草小学校を見に行った時には、その良さというものを感じて、「小規模校はいいんじゃない」と思った。</p> <p>委員：・・・この答申の裏側に、様々な課題が見えてると感じた。 ・・・答申ありきで説得をする立場をぜひ避けていただきたい。説明会では、</p>	

年 度	回 期 日	参加者数 委 員 事 務	議事内容	発言のポイント	公 非 傍 聴
				<p>皆さんの意見を柔軟に受け止めて、丁寧な説明をしていただきたい。</p> <p>副会長：・・・審議会の答申を踏まえ、足利市教育委員会あるいは足利市の市長部局が、全小中学校、保護者、地域住民、市民と具体的なレベルでより丁寧な議論、協議を進めていただければと願っています。</p>	